

The expansion of the space. and The density of dark energy.

The space continues expanding.

The density of dark energy should become light.

The fixed number of the gravity equation shows a value of the dark energy.

The fixed number of the gravity equation is a constant value. I do not change.

By hypotheses of the elementary particle pulsation principle, I always set fixed number Λ with zero.

I set a density of dark energy level with a vacuum of energy zero.

Quantum gravity equation

量子重力方程式

Integration of the theory of relativity and quantum mechanics

Energy sum is zero.

$$R_{\mu\nu} - \frac{1}{2}Rg_{\mu\nu} = \frac{8\pi G}{c^4}T_{\mu\nu} - \Lambda g_{\mu\nu} - E\psi \cdot 10^{-40}$$

1

2

空間の歪み

3

エネルギー

4

$\Lambda = 0$

宇宙定数

5

$E\psi \cdot 10^{-40}$

6

$i\hbar \frac{\partial \psi}{\partial t} = E\psi$

シュレーディンガー方程式。

1	Gravity equations
2	Distortion of the space
3	Energy
4	Cosmological constant
5	Energy is zero.
6	Schrodinger's Equation

上記の方程式は宇宙定数がゼロ、追加エネルギーがゼロなので、
宇宙定数のない重力方程式と同じになる。
素粒子のエネルギー総和は、脈動毎に正・負エネルギーが相殺してゼロとなる。

宇宙の膨張と暗黒エネルギーの濃度。

現在、宇宙は膨張を続け、その膨張が加速していることが観測されている。

真空空間を満たす超希薄な暗黒エネルギーの濃度は、暗黒エネルギーが補充されない限り、宇宙の膨張に反比例して低下し、暗黒エネルギーはより希薄になってゆくはずである。しかるに、観測事実は、暗黒エネルギー濃度の変化は検出されていない。本来ならば、重力方程式における暗黒エネルギーに相当する宇宙定数は変化しているはずであるが、一般相対性理論の重力方程式の定数は一定値であり、変化しない。素粒子脈動原理の仮説が導く、暗黒エネルギーの物理においては、その時々宇宙における暗黒エネルギーの濃度をエネルギー・ゼロの真空そのものであると仮定している。宇宙空間における暗黒エネルギーの総量が一定で、宇宙空間が膨張すれば、宇宙空間の暗黒エネルギーの濃度レベルは低下する。しかし、低下した暗黒エネルギーのその濃度レベルをエネルギー・ゼロの真空と設定しているが故に、暗黒エネルギーの物理は変化せず、暗黒エネルギーを現す重力方程式の定数は常にゼロの一定値である。

万物の方程式 (一般相対論と量子力学を融合する)

- 1) 一般相対性理論の重力方程式を素粒子脈動原理に適用し、量子重力方程式として宇宙から素粒子までを表わす。
- 2) 宇宙定数を暗黒エネルギーであると仮定し、暗黒エネルギーの密度をエネルギーゼロの水平線として表した暗黒エネルギー一波形図において、水平線の上下が4次元空間、水平線が3次元空間であると仮定する。水平線は膜宇宙に相当する。
- 3) 水平線から上成分が正エネルギー、正質量であり、水平線から下成分が負エネルギー、空乏空間(重力が作用)である。
- 4) プランク時間の周期で重力方程式の空間の歪みが正~0~負の変化を繰り返し、素粒子から宇宙まで万物が脈動する。
- 5) 空間の歪みがゼロの時、暗黒エネルギー脈動原理の水平線を表し、真空そのもの、3次元空間の膜宇宙を表す。
- 6) 空間の歪みが負の時、光子による空間の歪みに暗黒エネルギーの圧縮力が作用し、空乏空間は重力子として作用する。
- 12) 宇宙空間は脈動する光子群に満たされプランク時間で明滅し、素粒子をはじめ、人間も、自然も、万物が明滅している。Eψ

プランク時間で脈動する量子重力方程式。

相対論の重力方程式 エネルギーゼロの2つの項を追加。

$$R_{\mu\nu} - \frac{1}{2}Rg_{\mu\nu} = \frac{8\pi G}{c^4}T_{\mu\nu} - \Lambda g_{\mu\nu} + E\psi \cdot 10^{-40}$$

空間の歪み

エネルギー

シュレーディンガー方程式。

$$i\hbar \frac{\partial \psi}{\partial t} = E\psi$$

宇宙定数Λが暗黒エネルギーであり、Λ=0 (エネルギーゼロ)と仮定する。

- 上記の方程式は宇宙定数がゼロなので、宇宙定数のない重力方程式と同じになる。
- 重力と電磁気力の力の差は $\cdot 10^{-40}$

プランク時間で変化する、脈動毎に打ち消し合い、エネルギー総和はゼロ。

万物の幾何学

素粒子から宇宙まで、暗黒エネルギー脈動原理の幾何学が万物を因説する。

宇宙規模の極大空間の構造とマイクロ空間の構造を、同じ泡構造の幾何学として因説する。脈動原理は、4次元空間や暗黒エネルギー、暗黒物質を発見し、自然界の4力を統一する。インフレーション宇宙モデルの点宇宙からの指数関数的膨張を否定し、特異点や銀河分布の謎を解明する。

